

研究発表会開催通知

(昭和 61 年 4 月 15 日～5 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
知 識 工 学 と 人 工 知 能	5 月 9 日(金)	9 : 15～17 : 00	機械振興会館	下記参照
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5 月 9 日(金)	10 : 00～16 : 50	同 上	同 上
日 本 語 文 書 処 理	5 月 14 日(水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5 月 15 日(木)	13 : 00～17 : 15	阪 大	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5 月 19 日(月)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
設 計 自 動 化	5 月 20 日(火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
情 報 シ ス テ ム	5 月 20 日(火)	13 : 30～17 : 00	慶 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5 月 22 日(木)	13 : 00～17 : 30	名 大	同 上
自 然 言 語 処 理	5 月 23 日(金)	13 : 00～16 : 20	N T T	同 上
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	5 月 23 日(金)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5 月 28 日(水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上

◆ 第 46 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数 : 11 件)

(主査 : 堂下修司, 幹事 : 西田豊明, 米澤明憲)

日 時 昭和 61 年 5 月 9 日 (金) 午前 9 時 15 分～午後 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄 : 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電 : 浜松町下車, バス : 渋谷一東京タワー線東京タワー, 渋谷一東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) 概念階層を扱う PROLOG : PAL 赤間 清 (北大・文)

〔概要〕 概念階層を扱える拡張 PROLOG を実現したので報告する.

(2) 関係管理システム 赤間 清, 滝川雅己 (北大・文)

〔概要〕 関係データベースを帰納的に管理するシステムの設定と実現について述べる.

(3) CL におけるルール指向プログラミング

渡辺正信, 岩本雅彦, 山之内徹 (日電)

出口幸子 (日本電気ソフトウェア)

松田裕幸 (日本電気技術情報システム開発)

〔概要〕 ルール指向知識表現において, 柔軟なカスタマイズ機能を提供するドメイン言語プリミティブを中心に報告する.

(4) フレームにおける構造の記述と対象の理解

中間正人 (カシオ計算機), 上野晴樹 (電機大)

〔概要〕 フレームモデルの構造の記述とこれを用いた理解の手法及び、フレーム型知識表現言語 ZERO の拡張について述べる。

(5) 故障診断エキスパートシステムのための知識獲得システム

柳 吉洙, 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 データベースや専門家が入力したデータから知識を抽出する方法, 知識抽出過程の学習について報告する。

(6) 学習機能をもつ算術問題解答システム

桜井成一郎, 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 対語を通して知識獲得を行い問題解決能力を改善する, 算数の文章題を解くシステムについて報告する。

(7) 知識ベースの段階的詳細化に適した知識表現モデル

石田 享, 森原一郎, 古屋博行, 服部文夫 (NTT 通研)

〔概要〕 知識ベースの詳細化過程で生じるさまざまな詳細度の知識を表現するための, 論理に基礎を置く知識表現モデルを提案する。

(8) 論理型言語における circumscription

森 辰則, 中川裕志 (横浜国大・工)

〔概要〕 McCarthy, Lifshitz の提案した計算可能な circumscription の論理型言語への応用について述べる。

(9) プログラム変換による定性的推論の効率化

川本啓之, 中川裕志 (横浜国大・工)

〔概要〕 Prolog で記述された定性的推論システムを部分計算を中心とするプログラム変換によって効率化する方法について述べる。

(10) 多重世界による時間論理システム 八田匡史, 中川裕志 (横浜国大・工)

〔概要〕 多重世界をベースにした時間論理の推論及び表現システムに関して, その知識表現, 推論メカニズムについて述べる。

(11) 文法推論に基づいた翻訳文法の学習方式

佐藤理史, 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 実例 (対訳と誤訳) 集合から, 二言語間の双方向翻訳をおこなう規則集合 (翻訳文法) を獲得する方法について述べる。

◆ 第21回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 出澤正徳, 内田光太郎, 守屋慎次)

日 時 昭和 61 年 5 月 9 日 (金) 午前 10 時～午後 4 時 50 分

会 場 機械振興会館 6 階 66 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) ビデオテックス用総合変換システム 倉田道夫 (大日本印刷)

〔概要〕 パソコンで作成した画像データを, キャプテン・NAPLPS の表現特性に合わせて変換処理を行うシステム。

(2) オブジェクト指向によるグラフィックス・ソフトウェア開発用ツールの試作 荒牧利充 (ソニー・テクトロニクス)

〔概要〕 オブジェクト指向の手法によるグラフィックス・ソフトウェアの開発環境を FORTRAN 言語で実現する。

(3) 白黒階調画像に対する滑線・滑縁化アルゴリズム

木見尻秀子, 安居院猛, 中嶋正之 (東工大・像情報)

〔概要〕 白黒階調画像に対し, 線成分と縁成分を区別し, より原図形に忠実な滑縁化を行うアルゴリズムを提案する.

(4) 等高線型形状モデルから格子点モデルへの変換

程 康 (中国科学院・理研), 出澤正徳, 相馬 嵩 (理研)

〔概要〕 等高線型の形状モデルを, 計算機処理に適した格子点データに, より正確に変換する簡便な方法を考案した.

(5) 自然の画像生成——木の手続き的形状定義法——

石井啓資, 千葉則茂, 斎藤伸自 (東北大・工)

〔概要〕 本研究では, 木の形状定義法として, ある種の“成長モデル”を考案し, 種々検討したので報告する.

(6) 自然の画像生成——山の手続き的形状定義法——

三沢雅一, 千葉則茂, 斎藤伸自 (東北大・工)

〔概要〕 本研究では, 山の形状定義法として, “等高線生成法”を考案し, 種々検討したので報告する.

(7) 高速デジタルアフェイン変換

市河研一 (NTT 通研)

〔概要〕 Bresenham の線分生成アルゴリズムを応用したデジタル画像データの高速アフェイン変換手法を提案し, GKS のセル配列プリミティブの出力機構への応用例について述べる.

◆ 第6回 日本語文書処理研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 山田尚勇, 幹事: 坂下善彦, 首藤正道)

日時 昭和 61 年 5 月 14 日 (水) 午後 1 時半～5 時
会場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)
議題 (1) オンライン手書き文字図形入力・編集法

戸井田徹, 木村義政 (NTT 通研)

〔概要〕 入力と編集を総合した手書き文字図形入力システムの概要と, 入力制限を緩和した文字認識法を述べる.

(2) 隣接線分構造解析法によるオンライン手書き図形入力方式

児島治彦 (NTT 通研)

〔概要〕 手書き図形の認識法と認識技術を利用した手書きの記号による文字図形の編集法について述べる.

(3) かな漢字変換用辞書を利用した日本語雑誌タイトルの分かち書き

桧垣泰彦, 池田宏明, 堀込静香 (千葉大・工)

〔概要〕 日本語で記述された雑誌のタイトルについて, システムのかな漢字変換用辞書を利用して分かち書きを行った.

(4) 日本語ワープロ向け新打鍵レベル模型の検証と応用

木村 泉, 粕川正充 (東工大・理)

〔概要〕 さきに提案した日本語ワープロ用作業時間手測手法 (打鍵レベル模型) を改良, 検証し, その一応用を示す.

◆ 第 29 回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数：8 件)

(主査：野口正一，幹事：浦野義頼，河岡 司，白鳥則郎)

日 時 昭和 61 年 5 月 15 日 (木) 午後 1 時～5 時 15 分

会 場 大阪大学基礎工学部 情報工学科ゼミナール室

[豊中市待兼山町 1-1, 国鉄：大阪下車，乗換 阪急宝塚線：石橋下車，東南徒歩 18 分，または大阪空港よりタクシー 3 km. Tel. 06 (844) 1151 内線 4826]

議 題 (1) 研究用ローカル・エリア・ネットワーク：LIPS-NET

中井秀司，稲井 寛，横平徳美，西田竹志

宮原秀夫，高島堅助 (阪大・基礎工)

[概要] 種々の通信機能を用いて，分散型オペレーティングシステムの研究が行える LAN のプロトコル構造について述べる。

(2) 静的二相ロッキングアルゴリズムの性能解析

任 景 飛，高橋 豊，長谷川利治 (京大・工)

[概要] データベースシステムの同時実行制御手段である静的二相ロッキングアルゴリズムを待行列理論を用いて性能解析する。

(3) ペトリネットモデルによる分散システムの階層表現

山田智彦 (ダイキン工業)，能谷貞俊，児玉慎三 (阪大・工)

[概要] 並行非同期動作を特徴とする分散システムのペトリネットモデルによる階層表現に関し，詳細化の前後における動作の一貫性を保証する規則を与えた。

(4) 分散環境におけるマルチメディア文書処理システムの一設計

三島善成，三好 力，井上智子，久保 登，千葉 徹 (シャープ)

[概要] マルチメディア文書の作成編集における効率化のためのデータ管理方式とユーザインタフェースの改良。

(5) 画像生成用 SIMD 型マルチプロセッサシステム MC-2

平井 誠，日高教行，残原重夫，鷺島敬之 (松下電器)

[概要] 画像生成用マルチコンピュータシステム MC-1 の評価に基づいて SIMD 型マルチプロセッサで画像生成を効率よく行うシステムの提案。

(6) 分散処理システム評価シミュレータを用いた具体的問題の適用例

下條真司，山口 英，宮原秀夫，高島堅助 (阪大・基礎工)

[概要] 当研究室で開発した分散処理システム評価シミュレータ「SEDS」を画像処理専用マルチプロセッサの性能評価に適用した例を示す。

(7) UNIX におけるプロセス制御機能のネットワーク化

谷口秀夫 (NTT 通研)

[概要] AP インタフェースを保存した形でプロセス制御機能をネットワーク化する手法について，UNIX を例に述べる。

(8) 情報ネットワークを利用した会議支援システム

上田鉄雄，阪田史郎 (日電)

[概要] パソコン群，LAN，ファイルサーバ，電子黒板等の会議機器を有機的に結合した会議支援システムについて述べる。

◆ 第 53 回 データベース・システム研究会

(発表件数：7 件)

(主査：上林弥彦，幹事：石井義興，鈴木健司，三浦孝夫)

日 時 昭和 61 年 5 月 19 日 (月) 午前 10 時～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 異種 DBS から成る分散型演繹 DBS について

滝沢 誠，伊藤秀昭，盛屋邦彦 (JIPDEC)

〔概要〕 各異種 DBS 上に，共通の論理型言語を提供する推論インタフェースを設けることにより，異種 DBS の統合利用を行わせるシステムについて述べる．

(2) 履歴オブジェクトに基づく意味的データモデル 田中克己 (神戸大・工)

〔概要〕 意味的データモデル上で履歴情報を表現・操作する方式について報告する．

(3) マルチバージョン・データベースにおける同時実行制御機構

羽生田博美，川上 英，疋田定幸 (沖電気)

〔概要〕 制限されたマルチバージョン・データベース・モデルに基づいた現実的な同時実行制御方式を提案する．

(4) リレーショナル DBMS におけるマルチオカレンス・フィールド・サポート言語の検討 武藤英男，中村史朗，大町一彦 (日立 シ研)

〔概要〕 マルチオカレンス・フィールド機能を実現するためのリレーショナル言語仕様の拡張についての検討結果を報告する．

(5) 知識ベースとデータベースの統合利用による，グラフ問題の処理

高須淳宏，大須賀節雄 (東大・工)

〔概要〕 知識ベースとデータベースのいくつかの統合化方式とその例について述べ，次いで，知識ベースにグラフの定理等を貯えることにより，汎用のグラフ処理を行うシステムについて述べる．

(6) データベースと OA：統合ソフトシェアの一つの試み

渡辺正視 (アプリケーションウェア研究所)

〔概要〕 コンパクトな関係型データベースを備え，事務処理全般を支援する統合ソフトウェア HOLON を紹介する．

(7) 第 2 回データ工学国際会議報告

石川 博 (富士通研)，横田治夫 (ICOT)，遠山元道 (慶大)

〔概要〕 筆者らは今年 2 月に開催された第 2 回データ工学国際会議に参加したので，会議の概要とその印象を報告する．

◆ 第 32 回 設計自動化研究会

(発表件数：4 件)

(主査：樹下行三，幹事：安藤 宏，池本康博，吉田憲司)

日 時 昭和 61 年 5 月 20 日 (火) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) コンカレント性を用いた検査系列生成法

高松雄三 (佐賀大・理工)，板崎徳禎，樹下行三 (広島大・総合科学)

〔概要〕 コンカレント性を用いて検査系列生成法を高速化する 2 つの手法を報告

する。

- (2) スタンダードセル方式 LSI のセル配置エキスパートシステム (K/CP) に
ついて 浜崎良二, 白木 昇 (沖電気)

〔概要〕 プロダクションシステム開発ツールを利用したセル配置機構を構築した
のでその方式, 評価結果について述べる。

- (3) 論理回路における故障検査問題の計算複雑度 藤原秀雄 (明大・工)

〔概要〕 故障検査問題の NP 完全性に影響を与える要因について考察を行い, 再
收れん経路との関連を明らかにする。また, 多項式時間で解ける一つのク
ラスを紹介する。

- (4) 第9回 Design for Testability Workshop 報告 船津重宏 (日電)

〔概要〕 1986年4月29日～5月1日, 米国コロラド州で開催された上記ワーク
ショップの概要および, トピックスについて紹介する。

◆ 第10回 情報システム研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 浦 昭二, 幹事: 橋本茂司, 松谷泰行, 山本毅雄)

日 時 昭和 61 年 5 月 20 日 (火) 午後 1 時半～5 時

会 場 慶応大学日吉図書館 AV ホール (地下 1 階)

〔横浜市港北区日吉 3-14-1, 東横線: 日吉駅下車 (東口) 徒歩 3 分。

Tel. 044 (63) 1141〕

議 題 (1) CAE システムの構築

鴻巣維彦 (東芝)

〔概要〕 基本設計業務の機械化を図るために各種解析, シミュレーションの統合
化を図る CAE システム構築法を紹介する。

- (2) プログラミング不要の技術計算用ソフト (EQUATRAN-M) の設計思想と
活用事例

小口梧郎 (三井東圧化学)

〔概要〕 連立方程式が手軽に解ける EQUATRAN-M についてその設計思想と機
能とを事例を中心に紹介する。

- (3) 全国微小地震活動モニタリングシステム

瀬瀬一, 宮武 隆, 鷹野 澄, 安永尚志 (東大・地震研)

〔概要〕 地震予知観測情報ネットワークシステムからほぼ実時間で送られてくる
微小地震観測データのモニタリングシステムを紹介する。

- (4) 人文科学とコンピュータシステム

杉田繁治 (民博)

〔概要〕 民博での情報処理を紹介し, 人文科学におけるコンピュータ利用の特徴
と, ハードウェア・ソフトウェアの問題点を議論する。

- (5) 通産省最新情報サービスシステム (MITI TIMES) について

青柳桂一 (通産省)

〔概要〕 通産省におけるディビジョンサポートシステムの一つである MITI
TIMES の事例を紹介する。

◆ 第42回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 白井良明, 幹事: 松山隆司, 吉田真澄)

日 時 昭和 61 年 5 月 22 日 (木) 午後 1 時～5 時半

- 会 場** 名古屋大学工学部 8号館2階講義室
〔名古屋市内千種区不老町，国鉄：名古屋駅より，地下鉄：東山線藤ヶ丘行にて本山駅下車，南へ徒歩10分，Tel. 052 (781) 5111 内線 3308〕
- 議 題** (1) フレーム型物体表面モデルによる3Dビジョン
濱 利行，石塚 満（東大・生研）
〔概要〕 フレームによる視点に依存しないトポロジカルな物体表面モデルの表現とそのモデルを用いた画像の解析について述べる。
- (2) 規則的パターンの投影像を利用した三次元物体の識別の試み
吉武敏幸，杉原厚吉，杉江 昇（名大・工）
〔概要〕 規則的パターンを平行光線を用いて物体に投影し，その像から物体の形・姿勢を求める手法について述べる。
- (3) 正射影速度場からの関節物体の構造復元アルゴリズム
加藤克己，杉原厚吉，杉江 昇（名大・工）
〔概要〕 2次元画像における関節物体の各点の位置および速度情報から3次元構造の復元を行う手法について述べる。
- (4) 移動ロボットにおける視覚システムの開発
渡辺 睦，小野口一則，星野 弘，木戸出正継（東芝総研）
〔概要〕 「極限作業ロボット」プロジェクトにおける移動作業用ロボット視覚システム設計思想および研究の現状について述べる。
- (5) サンプル図形提示による線図形および面図形抽出手順の自動構成方法の実現
久保田浩明，長谷川純一，鳥脇純一郎（名大・工）
〔概要〕 抽出したい特徴を画像の形で提示することにより，画像処理手順を自動的に構成する方法を提案し，実現例を示す。
- (6) 図形・画像ハイブリッドシステム
山平拓也，笠原 裕（日電 C&C研）
〔概要〕 図面を画像データとして入力し，利用目的に応じて意味付け，構造化することにより従来図形として扱われていた図面処理機能を実現するシステムについて述べる。
- (7) 見学 3D・医用グラフィックス関係

◆ 第55回 自然言語処理研究会

（発表件数：5件）

（主査：吉田 将，幹事：田中穂積，野村浩郷，日高 達）

- 日 時** 昭和61年5月23日（金）午後1時～4時20分
- 会 場** NTT 武蔵野研究センター 6-202B
〔武蔵野市緑町 3-9-11，国鉄：中央線三鷹駅北口下車，関東バス（1番乗場）：北裏行（便多数）武蔵野市役所前下車徒歩5分，Tel. 0422 (59) 3326〕
- 議 題** (1) Muプロジェクトにおける意味マーカの概念と体系
石川徹也（情報大），坂本義行（電総研），佐藤雅之（JICST）
〔概要〕 日英自動翻訳システムにおける意味マーカの機能とその概念定義および体系を，Muプロジェクトを例に明らかにする。
- (2) 動詞の多義性とその記述について 吉田 将，富浦洋一（九大・工）

〔概要〕 動詞の多義の発生機構について考察し、これをルール化し、基本的意味で定義する方法について述べる。

(3) 名詞句の指示と談話処理 風斗博之 (NTT 通研)

〔概要〕 アノ/ソノを中心に名詞句の指示の問題を「階層記憶」と「相互知識」を用いて定式化する。

(4) 日本語確率文法における書き換え規則の確率の推定について

松延栄治, 日高 達, 吉田 将 (九大・工)

〔概要〕 文節構造規則レベルの汎用の日本語確率文法を構成する場合の書き換え規則の確率の推定について述べる。

(5) 自然言語の構文・意味解析規則の帰納的学習システム

山本幹雄, 中川聖一 (豊橋技科大・工)

〔概要〕 単語も意味も知らない状態から、構文・意味解析規則を入力文と意味表現例から帰納的に学習するシステムを開発した。

◆ 第 6 回 プログラミング言語研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 島内剛一, 幹事: 石畑 清, 齊藤信男, 安村通見)

日 時 昭和 61 年 5 月 23 日 (金) 午前 10 時～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) プログラミング言語の標準化の動向 中田育男 (筑波大・電子・情報)

〔概要〕 プログラミング言語の最近の動向を、主として標準化の面 (ISO での動きや JIS 化の検討など) から概説する。

(2) Fortran 8 X の概要 菅 忠義 (学習院大・理)

〔概要〕 Fortran 8 X がどのように開発されつつあるのか、その特性・概要、および現状などを紹介する。

(3) COBOL 85—25 周年を迎えた COBOL 言語 植村俊亮 (電総研)

〔概要〕 CODASYL COBOL の最新仕様書 (1984 年版) は「25 周年記念」号であり、規格 COBOL も第 3 次改訂版を迎えようとしている。

(4) BASIC 上位水準 高田正之 (農工大・工)

〔概要〕 ANSI, ECMA, ISO, JIS で規格作業中の BASIC 上位水準について、特徴と動向を紹介する。

(5) Common Lisp 言語仕様の現在の論点とその方向 井田昌之 (青学院大)

〔概要〕 Common Lisp の言語仕様は、電子メール討論によって不明確・難解な記述が整理され、いくつかの機能追加が提案されている。

(6) 論理型プログラミング言語の動向 古川康一 (ICOT)

〔概要〕 論理型プログラミング言語の最近の動向について、特に、従来の Prolog を純化する努力と、GHC 等の並列化について述べる。

(7) An Overview of OBJ 2 二木厚吉 (電総研)

〔概要〕 代数仕様記述法をベースに設計された、OBJ 2 プログラミング言語についてその概要を紹介する。

◆ 第 47 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数：5 件)

(主査：花田収悦，幹事：落水浩一郎，紫合 治，春原 猛)

日 時 昭和 61 年 5 月 28 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

- 議 題 (1) 日本語ワードプロセッサのソフトウェア生産への応用
並木美太郎，関口 治，里山元章，中川正樹，高橋延匡 (農工大・工)
〔概要〕 日本語ワードプロセッサをプログラマーズワークベンチ化した結果とその使用経験について報告する。
- (2) 言語 C インタプリティブデバッグ
田中泰夫，中川正樹，高橋延匡 (農工大・工)
〔概要〕 OS/o のソフトウェアツールとして作成した言語 C インタプリティブデバッグの設計と実現について述べる。
- (3) マルチメディア表示システム記述用言語の設計と，その処理系の作成
田中啓輔，都倉信樹，辻野嘉宏，荒木俊郎 (阪大・基礎工)
〔概要〕 マルチメディアデータを対話的に表示するシステムの記述用言語と，その処理系について述べる。
- (4) 設計仕様解析ツール：Dela 杉野一正，大川 勉，高野 彰 (三菱電機)
〔概要〕 Ada を基礎とした日本語表現の形式的設計仕様の作成法とその内容を解析するツールの機能について述べる。
- (5) 抽象型構成子概念に基づくソフトウェア部品体系を用いた新しいソフトウェア構築方式
小林正和 (日立 シ研)
〔概要〕 既製ソフトウェアを抽象型構成子概念に基づき体系化し，この体系の対話利用により，段階的にソフトウェア構築を計る方式。

◆ ソフトウェア工学研究会

第 49 回研究会を 7 月 30 日 (水) 於機械振興会館で開催いたします。発表ご希望の方は 4 月末日までに事務局研究会係までお申込み下さい。なお，最近発表申込みが増えており，ご希望の期日に発表できない場合もありますご了承願います。

◆ ソフトウェア基礎論研究会

「プログラムの自動合成と変換」特集の研究会を 7 月 3 日 (木)～4 日 (金) 於機械振興会館で開催する予定です。(電子通信学会，ソフトウェア科学会と共催) 奮ってご発表・ご参加ください。なお，発表ご希望の方は 4 月末日までに学会事務局へお申込みください。

◆ 記号処理研究会

第 39 回研究会を 6 月 20 日 (金) 於東北大・工で開催いたします。

昭和 61 年度研究会のお知らせ

昭和 61 年度は、下記の通り 18 研究会(新設 1)で行います。(※の情報学基礎が新設されました。)

- 年間を通して参加の場合は登録をお願いします。(但し本学会員に限る。)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ¥1,000 をいただきます。(但し、部数に制限があります。)

研 究 会 名		。主 査, 幹 事	取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	。吉田 将 田中穂積 野村浩郷 日高 達	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	。上林弥彦 石井義興 鈴木健司 三浦孝夫	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチメディア DB, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB
3	知識工学と人工知能	。堂下修司 西田豊明 米澤明恵	知識の表現と獲得, 知識ベース, エキスパートシステム, 推論, 学習, 定理証明, 発見的手法, 自動プログラム合成, パターン理解, 人工知能用言語, 知能ロボット
4	記号処理	。和田英一 井田昌之 小川貴英 元吉文男	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用(数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, ラムダ算術, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5	ソフトウェア工学	。花田収悦 落水浩一郎 紫合 治 春原 猛	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, プログラミング言語, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, エキスパートシステム, 管理, メトリクス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6	マイクロコンピュータ	。安田寿明 岡田義邦 斉藤 剛 若島陸夫	1. マイクロコンピュータ, パーソナルコンピュータ関連分野の研究 2. ソフトウェア(OS, 言語, 応用パッケージの高機能化) 3. ハードウェア(論理方式, システム形式, 素子及び周辺素子) 4. 標準化(入出力方式, ファイル方式, 通信方式)
7	計算機アーキテクチャ	。田中英彦 喜連川優 長谷川隆三	計算機システムの設計・構成・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	。亀田壽夫 紀 一誠 野口健一郎	OS(大型/小型/分散)の構造論, 設計思想, 記述方式, 実現, 人間工学的評価, プログラミング環境, 並列処理, 計算機システムの性能解析, モデル化技法, 信頼性
9	コンピュータビジョン	。白井良明 松山隆司 吉田真澄	画像処理一般, 物体認識, ロボットビジョン, 動画画像解析, 画像データベース, 画像処理用ハードウェア, 視覚系のモデル
10	設計自動化	。樹下行三 安藤 宏 池本康博 吉田憲司	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 設計データベース, 知識ベース CAD, EWS, 階層化設計手法
11	マルチメディア通信と分散処理	。野口正一 浦野義頼 河岡 司 白鳥則郎	ニューメディア, マルチメディアを用いた広域分散, ローカル・ネットワーク, 機能分散, 負荷分散などの分散処理システムの設計と運用技術, 計算機網技術とその応用に関する理論と実際
12	日本語文書処理	。山田尚勇 坂下善彦 首藤正道	文章の分野別特徴, 人間工学的基礎, 各種入力法の研究と比較, オペレータ教育法, 文書処理方式と制御言語, オフィス・オートメーションとのかわり
13	グラフィックスと CAD	。川合 慧 出澤正徳 内田光太郎 守屋慎次	グラフィックス ソフトウェア, グラフィックス ハードウェア, グラフィックス言語, 標準化, 図形処理・表示アルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14	数値解析	。森 正武 唐木幸比古 野寺 隆 福井義成	数値計算とその解析, 特に超大型計算や超高精度計算, 数式処理との結合, 数学ソフトウェアの移植, 計算機や言語への提案, 計算の効率化手法
15	ソフトウェア基礎論	。広瀬 健 佐々政孝 所真理雄 新田克己	1. ソフトウェアの理論的基礎(プログラムの形式的仕様・意味論・検証論, システム・プログラムの基礎理論, 並列・分散処理の理論) 2. プログラミングの基礎(プログラムの変換・合成, 関数型・論理型・オブジェクト指向プログラミングの基礎・方法論, 項書き換えシステム, 新アーキテクチャのソフトウェア基礎)
16	情報システム	。浦 昭二 橋本茂司 松谷泰行 山本毅雄	情報システム(OIS, MIS, 情報サービスなど)の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	。島内剛一 石畑 清 斉藤信男 安村通晃	1. プログラミング言語の基礎理論(構文論, 意味論, メタ言語) 2. プログラミング概念の形式的記述(データ構造論, 並行処理論, プログラムの検証, 言語設計) 3. 言語処理系の理論と実際(構文解析, コード生成, 最適化, コンパイラコンパイラ, 解釈系, 言語向きマシン), 4. プログラミング支援環境(テキスト編集系, 構文向き編集系, デバッガ, ユーザインタフェース, 文書化)
18	※ 情報学基礎	。藤原 譲 有川節夫 富永英義 中村史郎	1. データ・知識の記述, 表現, 識別, 分類, 評価など 2. データ・知識の媒体, 変換, 標準化, 流通など 3. データ知識の基礎理論

昭和 61 年度研究会（新規）登録申込書

登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（60 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 60 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和 61 年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（3 月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限り、各研究会登録費は年間下表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録下さい。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おき下さい。

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること）

申込み	研究会名	登録費	申込み	研究会名	登録費
	自然言語処理	3,000円		設計自動化	3,000円
	データベース・システム	2,500円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		日本語文書処理	3,000円
	記号処理	2,500円		グラフィクスと CAD	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		数値解析	2,500円
	マイクロコンピュータ	2,500円		ソフトウェア基礎論	2,500円
	計算機アーキテクチャ	2,500円		情報システム	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		情報学基礎	2,500円

（フリガナ）

○申込み会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____

○勤務先名・所属 _____ Tel. _____

所在地（〒 _____）

○資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）

（〒 _____）

○登録費（年間） 2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件

合 計 _____ 円也

○次のいずれかの方法でご送金下さい。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途個人名を事務局までお知らせ下さい。

☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。

☐ 現金持参

☐ 郵便払込：払込用紙に希望研究会名を記入のこと。

☐ 口座番号「東京 5-83484」

☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945

○払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

○情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

（社）情報処理学会 研究会係 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 Tel. 03(431)2808

情報学基礎研究会発足のお知らせ

情報化の進展と各種のニューメディアの出現によって処理すべき情報は多岐にわたり、量的にも膨大なものとなってきた。急激に蓄積のすすめられているデータベースと、各方面で実用化が急がれている知識ベースの整備には多くの課題が残されている。

とくに研究開発や意志決定に必要なデータや知識は、入力することのみでも困難なことが多い。

これらは現在の計算機構との関連でデータや知識の本質的問題点であり、実務面からのみでなく技術的、理論的にも最近注目を浴びている重要な課題である。

本学会の各種の研究会とくに知識工学、言語、データベース、コンピュータグラフィクス、アーキテクチャなどの研究会とも共通な基礎的部分を有する研究会であるが、処理以前の情報すなわちデータや知識が計算機可読化されるまでの面に重点をおいている。多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

◆目 標

1. 情報学基礎の課題を明らかにし、理論の確立と応用技術の開発に寄与すること。
2. 情報学基礎に関する研究交流を行うこと。

◆主要な研究分野

1. データ・知識の記述項目、表現方法、識別・分類、評価など。
2. データ・知識の媒体、変換、標準化、流通など。
3. データ・知識の管理可能性、記述可能性、モデリングなどの基礎理論。

提 案 者 (五十音順)

有川節夫 (九 大)	有澤 博 (横浜国大)	石塚英弘 (情報大)	猪瀬 博 (東 大)
岩田修一 (東 大)	大保信夫 (筑波大)	小沢 宏 (東 大)	国井利泰 (東 大)
玄地 宏 (東 芝)	小林久志 (IBM)	坂井利之 (京 大)	菅原秀明 (理 研)
田中穂積 (東工大)	田中康仁 (姫路短大)	田村貴代子 (国会大)	時実象一 (化情協)
富永英義 (早 大)	中井 浩 (常盤大)	長野雄治 (JAPIO)	根岸正光 (東 大)
橋本昭洋 (N T T)	長谷川昇 (JICST)	藤崎博也 (東 大)	藤原 譲 (筑波大)
増永良文 (情報大)	松本大四 (三菱電機)	真名垣昌夫 (日電)	尹 博道 (富士通)
八重樫純樹 (歴 博)	横井 豊 (経企庁)	吉田郁三 (日 立)	

第 27 回 通 常 総 会 の お 知 ら せ

昭和 61 年度通常総会を下記によって開催いたします。総会の案内状は、別途郵送いたしますので、ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

- 日 時 昭和 61 年 5 月 20 日 (火) 15:30~17:00
会 場 機械振興会館大ホール (地下 2 階)
総会次第
1. 会長あいさつ
 2. 昭和 60 年度事業報告および決算報告
 3. 昭和 61 年度事業計画および予算審議
 4. 昭和 60 年度功績賞の表彰
 5. 昭和 60 年度論文賞の表彰
 6. 名誉会員の推挙
 7. 新役員の選定
 8. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ (無料) を行います。(会場 6 階 66 号室)
会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆様のご出席をお待ちいたしております。

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

SICE 基礎講習会—ディジタル制御—

昭和 61 年 6 月 9 日 (月)~10 日 (火)

日本化学会講堂

IFIP/WG 5.7 Working Conf. on New Technologies for Production Management Systems

1986 年 10 月 1 日 (水)~3 日 (金)

東京大学工学部

第 2 回 ヒューマン・インタフェース・シンポジウム

昭和 61 年 10 月 29 日 (水)~30 日 (木)

国立教育会館

第 4 回 日本ロボット学会学術講演会

昭和 61 年 12 月 15 日 (月)~17 日 (水)

早稲田大学理工学部

* 詳細は本号会議案内欄参照

新年度にあたって（お願い）

——会費・購読費の納入、新会員勧誘など——

新年度にあたって、会員の皆様につきの点につきご確認いただき、あわせてご協力のほどお願いいたします。

（１） 61 年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

2 月上旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

なお、本年 3 月に大学学部卒業予定の学生会員には、61 年度会費は正会員（7,200 円）として請求してあります。大学院修士課程に進まれた方は、学生会員として継続できますので、納付依頼書の記事を参照のうえ、会員番号を付し、大学院名・研究科名・専攻名、修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（２） 滞納会費の納入

60 年度会費未納者には、これまで再三にわたり請求いたしておりますが、このたびの請求によっても納付いただけない場合には、本学会から除名することがありますので、ご承知ください。

（３） 学会誌の送本先変更

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（本号末尾に添付）にて会員番号を付し、早速にご連絡ください。

（４） 退 会

書面（様式任意、はがき可）にてお申出ください。なお、60 年度会費が未納の場合には、昨年 4 月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

（５） 論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は本号に添付の申込書を使用して、お申し込みください。

（６） 新入会員の勧誘

4 月は新入会のチャンスです。入会申込書を前号末尾に綴込みましたので、入会をご勧誘ください。

学会誌送本先の住所等の変更届について（お願い）

年度の終りから始めにかけては異動期で、会員の住所や所属の変更が殺到いたします。これまで任意の書式でご連絡いただきましたが、EDP 化した事務処理の誤りを防ぎ、能率化するため、本号末尾に「変更連絡届」用紙を添付いたしました。今後異動連絡の際にご利用くださるようお願いいたします。

昭和 61 年度各種行事の予告について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。
 なお、期日・会場が変更される場合もありますので、ご留意ください。

行 事	期 日	会 場
第 27 回 通常総会	5・20 (火)	機械振興会館ホール
第 33 回 全国大会	10・1 (水)～3 (金)	広島工業大学
第 34 回 全国大会	62・3 中旬	(東京)

(講演会)

計算機科学の分野における技術動向 (シンポジウム)	4・4 (金)	機械振興会館ホール
プロトタイピングと要求定義	4・16 (水)～17 (木)	〃
1986 年夏のシンポジウム	7・21 (月)～23 (水)	箱根・強羅・静雲荘
アドバンスト・データベース・システム	8・29 (金)～30 (土)	機械振興会館ホール
第 19 回 情報科学若手の会	(8 月)	(筑波)
インタオペラブルネットワーク	11・4 (火)	機械振興会館ホール
グラフィクスと CAD	11・18 (火)～19 (水)	〃
コンピュータ・システム	11・20 (木)～21 (金)	〃
情報システム	12・5 (金)～6 (土)	図書館情報大学
第 28 回 プログラミング・シンポジウム	62・1・7 (水)～9 (金)	箱根ホテル小涌園
1987 情報学	1・13 (火)～14 (水)	日本学術会議講堂

(講習会)

コンピュータを用いた画像生成・表示の 基礎技法	9・16 (火)	機械振興会館ホール
ソフトウェア工学の現状と動向	12・11 (木)～12 (金)	〃

(共 催)

ISCA 86 国際会議	6・2 (月)～5 (木)	サンシャイン プリンスホテル
1986 年中等教育とマイクロコンピュータ 国際会議	8・18 (月)～22 (金)	都立産業貿易センタ
第 12 回 VLDB 国際会議	8・25 (月)～28 (木)	京都国際会議場
昭和 61 年電気・情報関連学会連合大会	9・10 (水)～12 (金)	中央大学理工学部
第 17 回 画像工学コンファレンス	12・2 (火)～4 (木)	ニッショーホール
Workshop on CAD Engines	62・3・16(月)～17(火)	機械振興会館ホール

情報処理学会第 33 回 全国大会論文募集要領

開催期日 昭和 61 年 10 月 1 日(水)～3 日(金)
会 場 広島工業大学 (広島市佐伯区五日市町)
応募資格 本学会個人会員 (正会員, 学生会員) に限ります。共同発表の場合には, 登壇発表者は会員でなければなりません。なお, 61 年度会費未納の会員は, 登壇発表ができません。また, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には申込みを受け付けません。入会申込書は前号末尾に添付してあります。(電気, 電子通信, 照明, テレビジョン学会会員は全国大会の参加・発表は会員扱いとします。)

~~~~~論文該当分野~~~~~

1. 基 礎
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム
 - c. プログラム理論, d. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
 - a. 専用マシン, b. 並列処理, c. 演算装置, d. 記憶装置, e. 周辺端末装置
 - f. 性能評価, g. 信頼性, h. 保守技術
 - i. マイクロコンピュータ, j. スーパーコンピュータ, k. その他
3. オペレーティングシステム
4. プログラミング言語およびソフトウェア工学
 - a. プログラミング言語とその処理, b. ソフトウェア設計, c. プログラミング技法
 - d. 開発管理保守, e. プログラミングツール, f. 性能評価, g. 信頼性, h. その他
5. データベース
 - a. データベースマシン, b. データモデル
 - c. データマネジメント, d. 分散データベース, e. 性能評価, f. 情報検索
 - g. その他
6. ネットワークおよび分散処理
 - a. システム, b. アーキテクチャ
 - c. プロトコル, d. ローカルネットワーク
 - e. 広域ネットワーク, f. 性能評価
 - g. 通信用ソフトウェア, h. その他
7. パターン処理および人工知能
 - a. 文字認識, b. 画像処理, c. 自然言語理解, d. 音声, e. 人工知能, f. 知識工学, g. ロボット, h. その他
8. 自然言語処理
 - a. 文解析合成, b. テキスト処理・辞書
 - c. 機械翻訳, d. 入出力, e. その他
9. 数値計算
10. ニューメディア
11. オフィスシステム
12. 情報システム
 - a. 情報要求分析, b. 情報システム設計法
 - c. 運用システム, d. その他
13. 技術, 産業への応用
 - a. CAD/CAM, b. CAE, c. グラフィクス, d. シミュレーション, e. その他
14. 社会システムへの応用
15. その他

申 込 料 不要です。ただし, 登壇発表される方は, 論文集原稿を提出する際に, 必ず講演参加費 (1 件につき 7,000 円) を納入してください。

申込方法 添付の講演申込用紙 (1 件 1 枚) に必要事項を記入し, 宛先明記の原稿用紙送付用封筒 (大きさ A 4 判…21cm×30cm のもの, 切手は不要) を同封のうえ, 61 年 5 月 16 日(金)までに (必着), 下記申込先へお送りください。登壇発表は原則として 1 人 1 件とします。ただし, やむを得ず 2 件以上になる場合には, 講演参加費は 1 件ずつごとに 7,000 円ずつを申しうけます (ただし, 論文集は 1 冊です)。申込締切後の変更は一切受け付けません。

論文提出 所定の原稿用紙を 6 月中旬に送付しますので, 昭和 61 年 8 月 11 日 (月) までにご提出ください。発表は日本語または英語で行うものとし, 論文は日本語または英語に限ります。ただし, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には, 原稿用紙を送付しませんのでご留意ください。なお, 大会発表の全論文を JICST の JOIS に入力することとなっております。所定の用紙に標題, 発表者名とアブストラクト (150 字以内) を記述して, 論文と一緒に提出していただきます。

表 彰 優秀な論文を登壇発表した新進の会員 (学部卒業後 10 年未満またはこれと同等の者) には, 学術奨励賞を贈呈し, 次期大会時に表彰いたします。

申 込 先 (社) 情報処理学会 第 33 回 全国大会係 Tel. 03(431)2808

夏のシンポジウム「ヒューマン・フレンドリなシステム」

近年ヒューマン・フレンドリなシステムという声をよく聞きます。いままでのコンピュータ・システムは一言でいえば既製服であり、アマ用、プロ用を問わず次のような問題が指摘されています。

- ・個々の使用者のことを考えていない。
- ・人間の方からコンピュータに合わせなければならない。
- ・使い込んでも使いやすくない。
- ・人間に無意識の内に影響を与える。

以上の問題点を具体的に次のようなテーマの側面から議論することを考えています。

- ・日本語の入力（鍵盤，手書き，音声など）
- ・日本語の出力（フォーマッタ，フォントなど）
- ・アダプタビリティを持つソフトウェア
- ・マニュアルのあるべき姿と作り方
- ・パターン認識や人工知能の利用
- ・パーソナル・コンピュータによる初等・中等教育用 CAI

なお，パネル討論として「ワープロの日本文化へのインパクト」，招待講演として「日本人と外国人とのヒューマン・フレンドリに対する考え方のちがひ」を予定しています。

夏のシンポジウムの主旨は参加者全員が発表することが原則です。今回は発表者のほかに上記の問題に対する意見をお持ちで積極的に討論に参加される方々も歓迎致します。

日 時 昭和 61 年 7 月 21 日(月)～7 月 23 日(水) (2 泊 3 日)

場 所 静雲荘 (文部省共済組合宿泊所，神奈川県箱根)

参 加 費 25,000 円

定 員 50 名

参加申込 5 月 31 日までに A 4 判用紙に下記事項をこの順に記載し，情報処理学会シンポジウム係へ送付のこと。

(1)氏名，(2)所属 (部局まで詳細に)，(3)連絡先 (住所，電話番号)，(4)発表を希望する場合はそのテーマと要旨

問合せ先 学会事務局または

東京農工大学工学部数理情報工学科 高橋 延匡 Tel. 0423(81)4221(内 400)

日本 IBM サイエンス・インスティテュート 藤崎哲之助 Tel. 03(265)4393

電気通信大学電気通信学部計算機科学科

角田 博保 Tel. 0424(83)2161(内 4113)

「グラフィクスと CAD」シンポジウム論文募集

グラフィクスと CAD の研究開発は近年ますます盛んとなり、基礎、応用の両面において、多くの興味深い話題を提供しています。当学会では、昭和 58 年から計 3 回標記シンポジウムを開催し、多数の研究者、技術者の参加をえて、有意義な成果を得ることができました。本年度も以下のような要領で標記シンポジウムを開催いたします。

グラフィクスと CAD の基礎、応用、ハードウェア、ソフトウェアの全般にわたり、これまでの成果の発表から、新しい手法の提案、今後の展望、先端技術を深く追求するものに至るまで、十分な意見交換や議論の種となるような、先駆的な論文の応募をお願いいたします。

日 時 昭和 61 年 11 月 18 日(火)、19 日(水) 9:00~17:00

場 所 機械振興会館大ホール(地下 2 階)

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません。)

- ・グラフィクスの基礎／表示技術、リアリズムの追求、グラフィクス入力、データ構造とデータベース、マン・マシン・インタラクション
- ・グラフィクス・システム／グラフィクス言語とソフトウェア、グラフィクス・デバイスとワークステーション、システムのモデリング、ラスター・グラフィクス、標準化
- ・グラフィクスの応用／アニメーションとアート、ビジネス・グラフィクス、文書や画像の処理、応用事例
- ・CAD／設計方法論、形状モデリング、図面の入力と処理、エンジニアリング・データベース、インテリジェント CAD、システム構成法、応用事例

実施方法

- (1) 完成された研究論文のみでなく、問題提起、新しい試み、提案など、いろいろな性格の論文を歓迎する。
- (2) 発表論文件数は 16 件程度とし、1 件当りの発表時間は討論を含めて 30 分をいどとする。
- (3) 論文概要(和文 A 4 判用紙 400 字程度、連絡先等明記のこと)により、採否を決定する。
- (4) 採択されたものは、本論文(本学会全国大会論文用紙にて、4~8 枚程度、和文)を提出していただきます。
- (5) 昨年同様にビデオ・フィルムショーを同時に行う予定です。出展ご希望の方は、内容概要(200 字程度)、長さ(分)、媒体(VHS/ベータ)、連絡先等を A 4 判用紙に明記の上、お申し込みください。
- (6) スケジュール
論文(ビデオ内容)概要締切 8 月 1 日(金)
採択論文(ビデオ)決定、通知 8 月下旬
本論文(ビデオ説明)締切 10 月 15 日(水)
- (7) なお、論文の応募状況により、発表論文や発表時間の調整を行わせていただくことがあります。

申 込 先 情報処理学会「グラフィクスと CAD」シンポジウム係

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel. 03(431)2808

IFIP Congress 86 への団体割引旅行について

来る9月1日～5日にアイルランドの首都ダブリンで開催される標記国際会議に際し、既報のとおり、IFIP 会長国として多数の参加が得られるように、日本交通公社を Agent として、低廉な団体旅行を企画いたしましたので、ご案内いたします。

記

- 期 日 1986年9月1日(月)～5日(金)
会 場 Congress: Trinity College, University of Dublin
Exhibition: Royal Dublin Society
- 参 加 費 ① 一般 (IR) £ 400 (6月13日まで) (IR) £ 425 (6月14日以降)
② 学生 (IR) £ 75 ③ 同伴者 (IR) £ 50

団体旅行(3種)

- (1) 会議出席短期間 (8月30日(土)～9月7日(日), 9日間)
東京ーダブリン(6泊)ー東京 旅行代金 470,000 円
 - (2) 会議出席と自由滞在(8月30日(土)～9月13日(土), 15日間)
東京ーダブリン(6泊)ーロンドンー6日間自由滞在ーロンドンー東京
旅行代金 470,000 円
 - (3) 会議出席と業務視察 (8月30日(土)～9月14日(日), 16日間)
コーディネータ: 京都大学数理解析研究所 高須 達教授
東京ーダブリン(6泊)ーロンドン(1泊)ーエジンバラ(2泊)ーボン(2泊)ーパリ
(2泊)ー東京
業務視察先 (予定)
●エジンバラ大学 ●ボン数理情報処理研究所 ●INRIA
旅行代金 790,000 円
- 注) (i) 会議登録は下記 JTB で代行いたします。
(ii) 上記団体旅行の日程に合わない場合、またはビジネス・クラスの航空
運賃ご利用の場合も下記 JTB にご相談下さい。

詳細募集要項は下記の JTB にお問い合わせ下さい。

(株)日本交通公社海外旅行虎の門支店国際会議センター IFIP 86 係

〒105 東京都港区西新橋 1-5-13 第8東洋海事ビル4 F Tel. 03(504)1741

支 部 だ よ り

中 国 ・ 四 国 支 部

総会ならびにフォーラム開催について

1. 総 会

日 時 5月14日(水) 13:00～13:30
会 場 マツダ(株)本社会議室(広島市外府中町新地)
議 題 (1) 行事及決算報告
(2) 役員改選報告
(3) 行事計画及予算案

2. フォーラム

日 時 5月14日(水) 13:30～17:20
会 場 同 上
定 員 100名(定員に達し次第締切ります)
参 加 費 無 料
プログラム 主題「高機能パソコンの現状と将来」
高機能パソコンに求められるもの(13:30～14:10) 高橋 義造(徳島大)
ハード面から見たパソコンの高機能化(14:10～14:50) 疋田 勝士(日 電)
基本ソフトから見た高機能化(14:50～15:30) 生野 達彦(シャープ)
アプリケーションソフトが求める高機能化(15:30～16:10)
門田 章(コアグループ 西日本シンクタンク)
パネル討論会(16:20～17:20) 全講師

3. 懇 親 会

日 時 5月14日(水) 17:30～20:00
会 場 マツダ労働会館(広島市南区小磯町1-1)
会 費 3,000円(当日受付にて徴収します)

4. 申 込 方 法

フォーラム参加希望者は、往復はがきに「フォーラム参加」と標記し、①氏名、②勤務先、
③所属学会、④懇親会への出席・欠席を記入して下記宛お申込み下さい。

〒724 東広島市西条町下見 広島大学工学部第二類

情報処理学会中国四国支部 担 当 中 村 Tel. 0824(22)7111(内 3443)

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌“Journal of Information Processing”に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 70ページ×4回/年＝280ページ，A4判

(2) 純学術研究発表誌とし，Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読基準に基づき，欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて，採録を認められた欧文による小論文

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い，1行65ストローク，ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し，パラグラフは初めを5～6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で，欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体，数式中の記号は(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上，タイトル，氏名，所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は，完成図(そのまま縮小製版できるもので，縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお，文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし，説明文は別紙にまとめてタイプし，本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先：情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として，ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊) および欧文誌 “Journal of Information Processing” (略称 JIP・季刊) は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申し込みください。
郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は4月号448ページにあります。

年間購読料	会 員	非 会 員
論 文 誌	4,500 円	7,800 円
欧 文 誌	3,000 円	6,000 円 (海外 7,000 円)

昭和 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申し込みます。(該当欄を○で囲む) 会員 No. _____

1. 氏 名 _____ 会員 (正, 学生, 賛助)・非会員

連絡先 (〒 _____)

Tel. _____

送本先 (〒 _____)

注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌 (申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌 (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

b. 欧文誌 “Journal of Information Processing” (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 _____ 月 _____ 日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

4. その他 (学会事務局への連絡事項)